



たいしも通信

今回は防衛関係ニュース第11弾、そしてたいしも通信通算第60号記念として、先日中国で行われた大きなイベントとその背景についてお送りします。イベント中の軍事パレードでは今回初となる新型兵器等面白いものも登場しましたが、それらについてはまた別の機会に取り上げることとします。これまで本紙では主に我が国の情報について扱ってきましたが、今回は初となる相手方についてのスタディです。内容については事実や根拠に基づくものととし、好き嫌いや想像は極力排除したつもりです。

◆そもそも抗日戦勝80周年記念式典とは

2025年9月3日、中国において中露朝のトップや20カ国以上の首脳らが参加し、「抗日戦勝80周年記念式典」が大々的に行われました。メイン会場となる天安門広場は5万人の群衆に埋め尽くされ、関連映画やドラマの放映、各種行事やイベントが連日実施されています。これが通常の記念式典と異なるのは明白であり、日本の在中国日本大使館からも、反日感情の高まりに特に注意し、外出の際には不審者の接近等、周囲の状況にくれぐれも留意して安全確保に努め、複数人で外出する等、特に子供連れの場合には十分に対策をとるようにと厳重な注意喚起がなされています。

遡ること約10年前の2014年、全国人民代表大会常務委員会(全人代)は9月3日を「中国人民抗日戦争勝利記念日」と正式に決めました。これに基づき、習近平は翌2015年に初の大軍事パレードを開催しました。しかしこれに対し、共産党政権が「自らの勝利ではないものを、自らの権力を称えるための政治的儀式」だという意見があります。そもそもなぜ、中国共産党政権は10年前まで「抗日戦争勝利」を祝う式典や軍事パレードは一度も開催しなかったのでしょうか。

実は共産党にとって、「抗日戦争の勝利」を祝うことは気まずいものでした。当時を生きてきた人々にとって、「抗日戦争の勝利」が米国と国民党政府の支援によって達成されたことを知っていたからです。そのため、過去数十年にわたり、中国共産党の公式祝賀行事は、内戦の勝利を記念するものでした。

しかし1991年、中国の国務院は9月3日を「中国人民抗日戦争勝利記念日」と決めました。これは、中国共産党が軍隊と戦車を用いて学生を虐殺した1989年の天安門事件を背景にした行為だったと言われている。この事件により、中国共産党は国内での正統性の証明が困難になりました。そこで常套手段であるナショナリズムに訴え、新たな敵を作り出すこととし、その最も都合の良い敵が日本だったのです。そして国内の政治的・経済的行き詰まりから、2014年の全人代による記念日制定へとつながるのです。

◆太平洋戦争直後の中国

先の大戦中、日本と中国との戦闘は8年間も続き、中国における人的被害は甚大で、1400万〜2000万人が死亡、約800万人が難民になったと推計されています。難民の数は当時の中国人口の約2割に相当しました。これは大変な数ですが、他方、中国共産党の政権掌握後、毛沢東政権下の数々の政治運動による死者数はさらに多く、1959年〜1962年にかけての大飢饉だけでも3000万〜4000万人が亡くなったという情報もあります。

▼編集後記▲

天安門事件について、某〇HKでも当初は「そのような事件は無かった」とか、その後の特番でも「虐殺は無かった」などと報道されました。中国に対して思うところは多々ありますが、それよりも国内の報道機関には、より身近な危機感を覚えます。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。